



プログラムの概要

- 川の周辺でゴミ拾いを行う。美化意識や環境保護の意識の向上につながる。

関連する学習	・5年生－社会「生活環境を守る」 ・5・6年生－道徳「主として集団や社会とのかかわりに関すること」 ・共通－総合的な学習の時間 ・共通－特別活動－学校行事「勤労生産・奉仕の行事」
所要時間	45分×1
活動場所	川の周辺

Keyword

キーワード

- ゴミ拾い
- 社会奉仕
- 美化活動
- 環境保護
- ゴミの分布
- 川の流れ



活動のねらい

- ゴミ拾いを通じ、環境問題に対する意識を高め、社会奉仕の精神を養う
- 川のどのような場所に、ゴミがたまりやすいのかを学ぶ

川には多くの自然が存在し、私たちの目をなごませてくれたり、そこを訪れる楽しさを与えてくれたりするが、空き缶をはじめとした多くのゴミが見られる河川も少なくない。

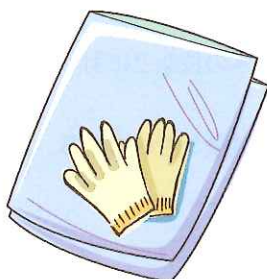
このプログラムでは、川のゴミの分布を調べることで、川に多くのゴミが落ちていることの現状を知り、ゴミのたまりやすい場所とたまりにくい場所があることを学ぶ。また、ゴミをなくすためにはどうすべきかを考えることで、環境に対する意識を高める。

2
プログラム

準備するもの

○活動に必要な道具

- ・ゴミ袋
- ・軍手
- ・ワークシート
(参考資料参照)

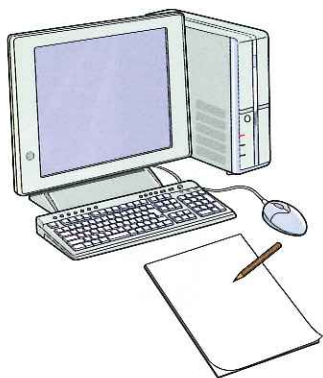


○野外で活動するための服装

- ・動きやすい服や靴（体操服や運動靴など）
- ・ライフジャケット
- ・帽子
- ・タオル

○安全に活動するための道具

- ・救急箱
- ・飲料水



① 情報収集

- ・体験活動を安全に実践するための基本的な準備や注意点、川や水辺に内在するさまざまな危険について、書籍やインターネットなどを活用して学んでおく。
- ・活動を実施する川についての情報も同様に収集する。
- ・川の指導者などに、あらかじめ川の様子に関するヒアリングを行う。川の指導者は、「川に学ぶ体験活動協議会（RAC）」を通じて紹介してもらうことも可能である。

② 道具や装備の準備

- ・活動に必要な道具（ゴミ袋、軍手など）を準備する。
- ・川の近くで活動するときには、危険が少ないと感じてもライフジャケットを着用することが望ましい。
- ・道具のほか、炎天下の活動では熱中症や脱水症状を引き起こす可能性があるため、日陰の場所を確保するとともに、飲料水の準備もしておく。

③ 活動場所の選定

- ・調査の目的に合わせ、事前に活動場所を決めておく。
- ・事前に現場を下見し、猛毒をもつヘビやスズメバチなどの危険な生物がいないか、その他の危険な場所がないかを確認する。

④ その他

- ・活動場所が遠い場合には、アクセス方法を確認するとともに移動手段を確保する。
- ・活動当日の天気や河川情報の収集を行い、天気が悪い場合には延期や中止の判断をする。活動中も天候の変化や川の水位等の情報収集を、常に心がけることが重要である。
- ・河原での作業となるので、熱射病に気をつける。活動時間は日の強くなる前（午前中）に行うことが望ましい。

活動内容

導入

- ・「どのような自然があるか」を子どもたちに問いかけ、川のすばらしさを聞き出す。その上で、「その中に、ゴミが落ちていたらどのような気持ちになるか」と問いかけ、ゴミに対する意識づけを行う。

活動Ⅰ ゴミを拾う



ゴミ拾いの様子

- ・子どもたちを数班に分け、場所別（川岸、砂州、河川敷など）でゴミ拾いをする。
- ・ゴミは、地面だけではなく、木の枝などに引っ掛かっていることがあることも、事前に伝える。
- ・ゴミには、とがったゴミなど危険なものもある。危険なゴミには触れないように注意する。

活動Ⅱ 場所別でのゴミの分類



集めたゴミ

- ・子どもたちを集合させ、班ごと（拾った場所ごと）に収集したゴミを地面に並べる。
- ・ゴミを「種類別」や「用途別」で分類し、ゴミの種類をワークシートに記入し、ゴミの種類と多くみられたゴミを発表する。
- ・場所によって落ちているゴミの量は違うはずである。どうして、そのような結果になったのかを問いかける。
- ・子どもの意見を受け、教師は、流れがゆるやかでゴミが引っ掛かりやすい川岸や、流れのない場所にゴミがたまりやすいことを伝える。
- ・木の枝などに引っ掛かっていたゴミがあった場合は、どうしてそのような場所に引っ掛かっていたのかを問いかけ、増水時には川の水がその高さまであったことを説明する。

活動Ⅲ 種類別でのゴミの分類



- ・ゴミを「人間の活動によって発生したゴミ」と「自然に発生したゴミ（流木など）」に分類する。
- ・「人間の活動によって発生したゴミ」の割合を確認する。「自然に発生したゴミ」との違いを考える。
- ・人間が活動することによって川が汚されていることを話し、だれがどうして捨てたのかを考えさせる。

まとめ

川のゴミの分布は、川の流れの速さや、増水時の水の高さに関係することを再度確認する。また、川のゴミの多くは、人間が活動することによって出されていることを話し、川のゴミを減らすためには、どのような活動ができるかを考えさせ（ポイ捨てをやめる、地域の人に呼びかける、ゴミ拾いをするなど）、まとめとする。

発展

活動の後、教室に戻り、ゴミの落ちていた地点をまとめた「ゴミマップ」を作成すると、ゴミのたまりやすい場所が把握しやすくなる。

子どもたちが考えた、ゴミを減らすための活動を実践してみるのもよい。

参考情報

○ゴミの分布について

- ・全国の河川ゴミマップ（国土交通省）

(http://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kankyo/kankyou/gomimap/index.html)

○川の指導者に関する相談先

- ・NPO 法人 川に学ぶ体験活動協議会（RAC）(<http://www.rac.gr.jp/>)

○川の水位や天候に関する情報

- ・川の防災情報（国土交通省）(<http://www.river.go.jp/>)

ゴミ調べ ワークシート		
年 組	名 前	
観察した場所		
観察した日	月 日 天候（ ）	
ひろったゴミ（拾ったゴミに○をつけよう）		
・タバコのすいがら ・タバコのパッケージ・包装 ・使い捨てライター ・ペットボトル ・ペットボトルのふた ・飲み物のガラスびん ・空きかん ・食品の容器 ・割りばし ・ストロー・マドラー ・シート類（ブルーシートなど） ・新聞紙 ・雑誌	・段ボール ・上記以外の紙 ・生活雑貨 ・おもちゃ ・電池 ・花火 ・服 ・くつ ・スプレーかん ・おもちゃ ・生活雑貨 ・ゴム ・家電	・自転車やバイク ・タイヤ ・ドラムかん ・くぎ、針金 ・ロープ・ひも ・生ゴミ ・はっばうスチロール ・ルアー ・ごみ袋 ・なえ木のポット ・つり糸 ・つりざお ・浮き ・木の枝
上のもの以外で拾ったゴミは？		
多くみられたゴミはなに？		
どこにゴミが多く落ちていた？		
気がついたこと		